

議会 だより



こがし
古河市

第 **55** 号

平成 30 年 9 月 1 日

編集／議会だより編集委員会

発行／古河市議会

[ホームページ](#)

古河市議会

検索



夏の暑さに負けず、舞を披露します！（悪戸新田獅子舞）

平成 30 年 第 2 回定例会 開催

第 2 回定例会は 6 月 5 日から 6 月 15 日までの会期 11 日間で開かれ、諮問 1 件、認定 4 件、報告 13 件、議案 33 件について審議しました。

一般質問は 6 月 12 日、13 日の 2 日間行われ 9 名の議員が登壇しました。請願 2 件、陳情 4 件については、3 ページの一覧表のとおりとなりました。

平成 30 年 第 2 回定例会 議決一覧表

議案等番号	件 名	議決日	議決結果
諮問第 2 号	人権擁護委員の候補者推薦につき意見を求めることについて	30.6.5	同 意
認定第 3 号	古河市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例及び古河市指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についての専決処分の報告及び承認を求めることについて	30.6.5	承 認
認定第 4 号	古河市税条例の一部を改正する条例の制定についての専決処分の報告及び承認を求めることについて	30.6.5	承 認
認定第 5 号	古河市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定についての専決処分の報告及び承認を求めることについて	30.6.5	承 認
認定第 6 号	古河市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についての専決処分の報告及び承認を求めることについて	30.6.5	承 認
議案第 60 号 から第 78 号	古河市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて	30.6.5	同 意
議案第 79 号	古河市ファシリティマネジメント推進委員会設置条例の制定について	30.6.15	原案可決
議案第 80 号	古河市いじめ問題対策連絡協議会等条例の制定について	30.6.15	原案可決
議案第 81 号	古河市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について	30.6.15	原案可決
議案第 82 号	古河市税条例等の一部改正について	30.6.15	原案可決
議案第 83 号	古河市都市計画税条例の一部改正について	30.6.15	原案可決
議案第 84 号	古河市医療福祉費支給に関する条例の一部改正について	30.6.15	原案可決
議案第 85 号	古河市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	30.6.15	原案可決
議案第 86 号	古河市子育て広場の設置及び管理に関する条例の制定について	30.6.15	原案可決
議案第 87 号	古河市駅西地域交流センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について	30.6.15	原案可決
議案第 88 号	財産の取得について	30.6.15	原案可決
議案第 89 号	市道の路線廃止について	30.6.15	原案可決
議案第 90 号	市道の路線変更について	30.6.15	原案可決
議案第 91 号	市道の路線認定について	30.6.15	原案可決
議案第 92 号	平成 30 年度古河市一般会計補正予算（第 1 号）	30.6.15	原案可決

◆色付き部分は賛否が分かれた案件

賛否の分かれた議案等

○賛成、×反対

議案等番号	真政会				古河市公明党				古河維新の会				市政同志会			政研・市民ベースの会					無会派			
	黒川輝男	鈴木隆	園部増治	赤坂育男	渡辺松男	高橋秀彰	佐藤稔	靄見久美子	増田悟	倉持健一	山腰進	稲葉貴大	渡邊澄夫	小森谷英雄	佐藤泉	並木寛	生沼繁	大島信夫	秋山政明	阿久津佳子	長浜音一	秋庭繁	落合康之	四本博文
認定第 4 号		○				○		○	—		○		○					○				×	○	○
認定第 5 号		○				○		○	—		○		○					○				×	○	○
認定第 6 号		○				○		×	—		○		○					○				×	○	○
議案第 79 号		○				○		○	—		○		○					○				×	○	○
議案第 82 号		○				○		○	—		○		○					○				×	○	○
議案第 83 号		○				○		○	—		○		○					○				×	○	○

※ 議長は表決に加わらないため「—」と表示。

請願・陳情一覧表

番 号	件 名	提 出 者	審議結果
平成 30 年 請願第 1 号	古河市サッカー場の改修を求める請願	古河市サッカー協会 会長 山中 秀男	採 択
平成 30 年 請願第 2 号	主要農作物種子法の復活等をもとめる請願	茨城県西農民センター 飯田 和夫	継続審査
平成 30 年 陳情第 2 号	シルバーリハビリ体操の普及を行う指導士の養成を求める陳情	おやま高正と信じられる古河市をつくる会 小山 高正	継続審査
平成 30 年 陳情第 3 号	軽費老人ホームの事務費補助の充実と老朽化対策を求める陳情	おやま高正と信じられる古河市をつくる会 小山 高正	不 採 択
平成 30 年 陳情第 4 号	放課後等デイサービスにおける質の向上及び監視強化に関する陳情	差別主義者から庶民を守る会 代表 高橋 好秋	継続審査
平成 30 年 陳情第 5 号	地域包括ケアシステムにおけるインフォーマルサービスの充実に関する陳情	差別主義者から庶民を守る会 代表 高橋 好秋	継続審査

第2回
定例会

一般質問

第 2 回定例会の一般質問は、6 月 12 日、13 日の 2 日間行われ、9 名の議員が登場し、市政全般について質問がされました。

一般質問とは、市長に対し施策・事業等の現況や将来計画の考え方、また市民に密着した問題などをたずねるため行うものです。各議員の質問と答弁の要旨をお知らせします。



古河市議会ホームページ、
またはQRコードからも
一般質問の様子をご覧いた
だけます！

古河市議会中継 検索



靄見 久美子 議員

幼小連携について

問 幼小連携は、幼児教育と小学校教育の違いによる小1プロブレムの解消や幼稚園から小学校への円滑な移行を目指すものである。小1プロブレムに対しての市内小中学校、幼稚園での取り組みと、本市の今後の取り組み、方向性について伺う。

答（教育長） 昨年度、小学校全 23 校、5 歳児クラスのある幼児教育施設 38 施設のうち、35 施

設で学校案内や遊びを通じた触れ合い等、交流連携を実施した。特に、駒込小とこまごめ幼稚園、仁連小とひかり幼稚園はさまざまな取り組みを積極的に行っており、今後の保幼小接続のモデルとなると考える。今後は、各施設で実施した内容の反省点を生かし、年間計画を毎年更新していきたい。また教育委員会主催の研修会を行い、カリキュラムの確認等を行う予定である。

多目的トイレについて

問 視覚障がい者の方が多目的トイレを使用する時、内部レイアウトがわかるよう、入口に点字の案内表示を設置してはどうか。また、オストメイト対応前広便座は、座ったまま排泄物処

理ができる。便座のみの交換で一般トイレにも設置が可能であるが導入について所見を伺う。

答（健康福祉部長） 現状では、点字を活用した多目的トイレ内の案内表示はない。市民のニーズ等把握し対応していきたい。また、オストメイト対応前広便座については、利用者の利便性や、通常の便座に取りつけできるというコスト面においても有効性があると考えており、導入について、検討していきたい。



オストメイト対応前広便座



佐藤 稔 議員

SNSを活用した「いじめ相談窓口」について

問 子ども達が気軽に相談できる、SNSを活用した^(※)「ストップイット」や「スクールコンケア」などの導入を提案するが、市の考えを伺う。

答（教育部長） スクールコンケアやストップイットは即時性、情報収集という点で有効であり、いじめの早期発見につながると思われる。スクールコンケアについては市内の中学校 1 校で昨

※「ストップイット」「スクールコンケア」…いじめ等のトラブルの早期発見・心のケアを目的としたアプリケーションツール。

年 12 月より試験運用しており、今後、同様のアプリ等についても研究を進めていきたい。



スクールコンケア

手話言語条例の制定について

問 全国的に手話言語条例制定の動きが広まっている。障がい者に優しいまちづくりを目指す古河市の手話言語条例の制定を提案するが市の考えを伺う。

答（健康福祉部長） 県や近隣市町での制定状況を確認し検討していきたい。また、制定に当た

り、市の責務、市民、事業者の役割の明確化、さらに実効性の検証、評価する体制の整備が必要と考える。

公用車への「ドライブレコーダー」設置について

問 事故やトラブル時の責任の明確化や安全意識の向上等を目的に平成 26 年 12 月定例会で提案したが、市の進捗状況を伺う。

答（財政部長） 平成 27 年度から段階的に導入し、現在 57 台に設置している。今後も新規車両への積極的な設置、有効的な活用に努めていきたい。

〈その他の質問〉

- ・若者の就労支援の充実について
- ・改正バリアフリー法について



渡辺 松男 議員

高血圧性疾患対策について

問 国民健康保険の医科・調剤医療費では、がんに次いで高血圧症などの循環器疾患に要した費用が多額の割合を占めている。また、以前は古河庁舎等に血圧計が設置されていたが、最近は見ないとの声があった。そこで、古河市データヘルス計画から見た高血圧性疾患の現状と分析、今後の取り組みについて、また、行政施設への血圧計設置の現状について伺う。さらに、高血圧

対策として市の主要施設に血圧計を設置して市民が気軽に血圧を測定できるようにしたり、またパンフレットを置き、啓発をすべきと思うが所見を伺う。

答（生活安全部長） 古河市では 40 歳から 74 歳までの国民健康保険加入者を対象に、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を実施している。健康診査結果を近隣市と比較すると予備軍の割合が高く、中でも血圧のみ基準を超えている人の割合は県内で 1 位の状況である。また、国民健康保険加入者における生活習慣病関連疾患のうち高血圧症に要した医療費が全体の 27.56%を占めている。健康診査の受診勧奨など、保健事業の実施を強化することで、生活習慣

病の発症や重症化を予防していきたい。

答（健康福祉部長） 以前は各庁舎および古河福祉の森等も血圧計を設置していたが、現在は健康の駅のみとなっている。また、啓発活動として、広報古河 6 月号に高血圧に係る特集記事を掲載した。血圧計の設置については、健康の駅の設置場所等の見直し、使用頻度等を確認した上で検討していきたい。



〈その他の質問〉

- ・暗がり対策について



園部 増治 議員

(仮) 南古河新駅設置計画再基礎調査について

問 (仮) 南古河駅の設置は、新市建設計画にあり、針谷市長も公約に掲げている。昭和58年から新駅設置促進期成同盟会が中心となって推進している。平成11年、20年に基礎調査が行われたが報告会は開催されなかった。今回は報告会という形で市民と意見交換をし、市政運営に当たっていることに感謝したい。地元の報告会を終えての率直な感想を伺う。

また、①新駅の位置づけについて、②駅勢圏人口の推移と利用者の予測について、③事業費と財源について、④新駅周辺のまちづくり（大堤南部土地区画整理事業）について伺う。

答 (市長) (仮) 南古河新駅設置計画再基礎調査に関する報告会を4回実施し、出席いただいた120名の方からは新駅設置に対する期待や区画整理事業に対する不安、事業が進まないことへの不満など率直な意見をいただいた。市民と直接対話できたことは、大変有意義であった。今後も地元の意見を踏まえながら、理解を得られるよう事業に取り組んでいきたい。

答 (企画政策部長) ①新駅設置は、古河市総合計画や新市建設

計画の先導的プロジェクトの一つに位置づけられている。②新駅予定地2キロメートル圏の人口は緩やかながら増加傾向となる予測である。③新駅の本体工事と関連工事の概算工事費は106億2,000万円となる。財源については、市だけでなく、県や国など外部資金も検討する必要があると考えている。④新駅の設置には大堤南部土地区画整理事業の推進が必須となる。地元の意見を踏まえながら新駅設置に向けての整備方針を検討していきたい。

新駅（南古河）の計画案
(平面イメージ図)

阿久津 佳子 議員

小中一貫教育について

問 県内には小中一貫教育を行っている市町がある。少子化により古河市でも学校編成が将来的に難しくなる局面が予想される。統廃合も含め、小中一貫教育を進める分離型、1年生から9年生までの一体型小中一貫校（義務教育学校）が考えられる。古河市において、今後の小中一貫教育の展開と展望、教育的効果と予測できる諸問題について伺う。



つくば市立学園の森義務教育学校

答 (教育長) 市の将来人口や少子化等を考えると、小中学校の再編は避けては通れない課題である。子どもたちにとってどのような教育環境がよいのか慎重に議論を深めていきたい。

答 (教育部長) 小中一貫校の設置には学校の統廃合という課題があり、学校用地が借地の場合、跡地の活用方法など古河市全体のまちづくりの構想や財政事情を考える必要がある。義務教育9年間を見通した系統性、連続性に配慮した教育活動が可能など、効果が高いと考えられてい

るが人員配置等課題も多い。

放課後児童クラブについて

問 現在、保護者会運営と市が委託する民間事業者運営があるが、今後の運営展開について伺う。また、指定難病やアレルギー疾患等のある児童や発達障害のある児童への対応はどうか。

答 (健康福祉部長) 今後の運営展開は2つの運営方法が継続するものと考えている。保護者会運営の児童クラブの意向も踏まえ、将来の運営について検討していく必要がある。アレルギー疾患等のある児童については、入会前に保護者特別ヒアリング等を実施し、入会後も保護者、学校との情報共有に努めている。



大島 信夫 議員

古河市への転入者増加策

問 市街化調整区域内でも、指定した区域で家を建てやすくする制度が、区域指定である。その行政区に居住した経験がなくても、市外からの転入者であっても住居を建築することが可能となる。日野自動車の社員なども市街化調整区域内に住居を建築することができれば、古河市に住んでもらえる可能性は広がる。また市街化調整区域内にある大和田小学校と駒込小学校の

児童数の減少は地域にとって懸念される問題であるが、地域に子育て世代が増えれば、この問題にも歯止めがかかることが期待される。

少子高齢化により地域のコミュニティが衰退しつつある現在、区域指定はその有効な打開策になると考えるが、所見を伺う。

答（都市建設部長） 現在人口減少、少子高齢化を迎え、転入者の定住確保が重要な施策の一つであると認識している。

市街化調整区域内に転入者が家を建てる制度として、地区計画と区域指定という制度がある。

区域指定については、平成21年度に、制度導入を検討するための調査を実施したが、市街化

区域の空洞化を招くおそれがあること、市街化区域内に未利用地が相当数残っていること、新たな基盤整備に伴う投資が必要なことなどから、導入はしていない。しかしながら、今後既存集落、地域コミュニティの維持も困難となってくるのが予想されるため、社会状況の変化に柔軟に追従できる方法として、区域指定等を含めたさまざまな施策について調査研究を進めていきたい。



生沼 繁 議員

伝統的旧民家の利活用の取り組みについて

問 三和地区の恩名に明治時代に伝統的工法で建築された山川邸があるが、歴史的、文化的価値の高い利活用可能な空き家である。市政運営の基本方針の中で、体験、参加型の観光ツーリズムに取り組むとあるが、①新しい市の観光資源としての考えを伺う。②一般社団法人茨城県古民家再生協会が農業宿泊体験モニターツアーを開催し、地元の野菜・米・卵・蕎麦・渡良瀬

の川魚で調理した料理を、参加者の皆さんが喜んでくれたと聞いたが、農泊・民泊の交流人口の増加について伺う。③昨年の訪日外国人観光客数が2,869万人と発表された。観光は成長戦略の大きな柱であり、古河市も圏央道が開通し、都心からのアクセスが良い。インバウンド効果について伺う。



中世の豪族山川邸

答（企画政策部長） ①歴史的、文化的資源を活用した観光まちづくりの一環として、旧民家も含めた地域に眠っている資産を

観光資源と捉え、地域経済の活性化につなげる仕組みづくりをしていきたい。

答（産業部長） ②③一般社団法人茨城県古民家再生協会が実施した農泊体験では国の交付金を活用しており、市では補助金の交付を受けるため、地域再生推進法人の指定等、支援を行った。今後も農泊事業を計画する方からの相談があれば、支援を行っていきたい。観光のニーズも多様化しており、日本でしかできない体験としての旧民家ツーリズムはインバウンド誘致にとっても重要な要素と考えている。市では農業団体等が行う収穫体験の実施状況を把握しているので、農泊体験ツアーなどの企画があれば、積極的に情報提供していきたい。



秋庭 繁 議員

利用計画のない給食センター跡地購入について

問 多目的広場として購入した土地の利用計画は、あるのか。また、産業廃棄物があったかどうか調査をせず、買い取る決裁をした市長の考えについて伺う。

答（市長） 決裁をしたのは就任後の平成 29 年 3 月以降だが、平成 27 年 12 月に市は跡地を買い取る意思があると地権者に伝えており、平成 28 年 7 月に、市長協議で正式に購入すると書かれ

ている。ある意味決定事項として申し送りをされた内容で、それまでの経緯などについては承知してなく、金額等が適正かどうかについて判断をした。

答（都市建設部長） 現時点では詳細な利用計画は決まっていない。今後、周辺住民の意見を聞き、関係課と協議を行い、利用方針を決めたいと考えている。

公立保育所の廃止は「待機児童ゼロ」の公約に反しないか

問 待機児童数の推移はどうか。また、市長が掲げた公約と公立保育所の廃止計画の整合性について伺う。さらに、第一保育所廃止後の代替の民間保育園の付近は、保護者から交通量が多く危険との声があるが、聞いてはいないか。



廃止決定された第一保育所

答（市長） 定員のみを考えると現時点でもゼロになるが、預ける側のニーズ等の問題もあり、待機児童が出てしまっている。ニーズを検証し、今年度新たに正保育士 5 名を採用した。場所ではなく、質の問題と考えたことも含め、古河市公立保育所運営ビジョンをまとめたところである。民間保育園については、具体的なお話を伺う機会はない。

答（健康福祉部長） 待機児童数は過去 5 年間全て 3 歳児未満となっており、年々減少の傾向にあると考えている。



落合 康之 議員

合併特例債の使い道について

問 市長は文化施設の必要性を訴える一方、（仮称）南古河駅設置に向けた説明会を開く旨の発言をされている。そこで文化交流拠点、つまり文化ホールの建設整備と南古河駅設置には幾らかかると想定しているのか。また合併特例債の残額と上記 2 事業の合計額は幾らになるのか。

答（市長） 南古河駅の駅舎に係る概算工事費は 106 億 2,000 万

円である。また合併特例債の平成 30 年度末における発行残高見込みは約 105 億円である。上記 2 事業の合計額は事業費としては積算できないが、文化交流拠点の整備については、過去に建設が白紙撤回になった経緯もあるため、事業の必要性等見極めながら、重点的、段階的に取り組んでいくべきと考える。

再質問 今回の質問の趣旨は両方を実施するだけの財源があるのかということである。市長は文化ホール建設の県への要請について、県の総合計画にはないから聞くなというような答弁をされているが、（仮称）南古河駅設置については、JR や国の総合計画にあるのか。また、ロードマップを示してほしい。

答（市長） 財源は基金や一般財源、国・県からの補助金等が考えられる。まちづくりは二者択一ではなく、可能性がある限り、市民の理解を得て事業を進めていきたい。また、JR や国に具体的な総合計画があるのかは分からないが、古河市が行う事業で可能性があるものについては要望していきたい。新駅設置再基礎調査の中に仮定ではあるが、平成 39 年に新駅開設とあり、今後は視野に入れながら事業を展開していきたい。



新駅報告書

会派の活動を報告します

真政会

真政会では 6 月 15 日に市内 3 力所において視察研修を行った。

① (仮) 南古河駅予定地付近

(仮) 南古河駅の設置は、合併時の新市建設計画の先導的プロジェクトに掲げられている。また、昭和 58 年から「新駅設置促進期成同盟会」が中心となって推進している。平成 8 年には、都市計画決定もされているが、事業の進捗がみられないため、昨年度再基礎調査が行われた。新駅設置箇所の輸送上、技術上の問題はない。今後の課題は、駅用地の確保、収益性と周辺のまちづくりである。これらの課

題に早急に対応し、長年の懸案である新駅設置に向けて全力で取り組むよう提案した。

② 上辺見保育所建て替え工事

日赤跡地で子育て拠点施設として、上辺見保育所の建て替え工事が行われている。施設の整備方針は、安全な保育環境の提供、月齢に応じたきめ細かな保育環境の整備などである。また現在の定員 120 人に対し最大 180 人の受け入れが可能な規模となる。10 月から 11 月にかけて募集を行う予定とのことであり、待機児童の解消につながるものと思われる。

③ (仮) 三和地域交流センター

老朽化した三和公民館の閉館に伴い、三和庁舎 3 階が三和公

民館として利用されているが、大ホール、調理室がないため、現在の三和公民館を補完する施設として建設された。多目的ホールは、移動観覧席 288 席を含む 385 席、ステージは 174 m²と広く、他に調理室、会議室が設けられている。三和庁舎との間に連絡通路ができることもあり、今後多くの利用が期待される。



新駅設置の調査 (大堤踏切付近)

黒川 輝男 鈴木 隆
園部 増治 赤坂 育男

古河市公明党

古河市公明党は 6 月、「平成 30 年度予算」に基づく事業計画について、会派がこれまで取り組んできた実績の検証と、今後の政策提案に向けた、政策検討会を実施しました。

その結果、会派からの政策提案に対し、今年度事業化された主な項目は、

① 「産前産後サポート事業」

(今年度は切れ目のない支援体制の構築を目指し、産後うつ予防や虐待予防の観点から、産後の健康診査を実施します。)

② 「子ども医療費の無料化」

(0 歳から中学 3 年生までの医

療費自己負担分を、実質無料にします。)

③ 「防犯灯の LED 化事業」

(防犯灯の LED 化をリース契約によって一斉に実施します。)

以上が主な実績項目です。

また、今後推進が必要と考える重点政策について検討し、議会での政策提案に向けて、以下の重点項目を抽出しました。

(1) 食品ロスを限りなく「0」に近づけるために、市民の意識啓発の推進。

(2) 通学路の安全確保のために、危険箇所のさらなる改善。

(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けた充実した体制づくり。

(4) ゲリラ豪雨などによる冠水地域の解消に向けた、計画的な

整備計画の策定。

(5) 自主防災組織の拡充強化と市民の防災意識の啓発など、全市民的な防災活動の推進。

以上の主な項目について、今後は調査研究をさらに進め、議会での政策提案などを通し、住みよいまちづくりのために、全力で取り組んでまいります。



渡辺 松男 高橋 秀彰
佐藤 稔 靄見久美子

会派の活動を報告します

古河維新の会

古河維新の会では、6月に今年度予算で駐車場拡張工事に伴う調査設計が計上されている道の駅「まくらがの里こが」の現地調査を実施した。道の駅の利用者数は、当初見込みを大幅に上まわり、平成 29 年度の年間レジ通過者が約 110 万人、売り上げも 11 億円を超えるまでに増えていると聞く。特に、土日祝日のピーク時には、慢性的な駐車場不足が生じ、苦情も寄せられているとのことで、一日も早い対応を求めている。

また、古河市では日野自動車関連企業誘致のため、新産業用

地の開発など、市内雇用の増加や若者の定住促進への支援を進めているが、この道の駅活用による交流人口増も地域活性化には欠かすことができない。単なる駐車場の拡張だけでなく、歓迎サインの設置やより利用者ニーズに合ったイベント企画など創意工夫を凝らした運営を求めている。

また、平成 30 年度予算における会派意見として、消防団家族に対する功劳報償金の継続、副市長 1 名分の予算減、市民から要望の多い道路改良費の増額など市民生活に直結した予算要求を求めている。

これからも各種施策・事業の検証や調査研究など市民目線で

頑張りたい。



会 長	増田 悟
副会長	倉持 健一
幹事長	山腰 進
会 計	稲葉 貴大

市政同志会

市政同志会では 6 月に市内の老朽化したスポーツ施設の視察を行った。

①古河市サッカー場

平成 30 年第 2 回古河市議会定例会において、会派を代表し佐藤泉議員が紹介議員を務めた「古河市サッカー場の改修を求める請願」が全会一致で可決された。

古河市サッカー場は昭和 57 年に竣工され、かなり老朽化が進んでおりナイター設備もない状況である。

改修は喫緊の課題であるとして担当部署に要望した。



古河市サッカー場視察

②古河体育館

昭和 46 年に建築されており、破損部分が多く見られ、いつ使えなくなるか分からない状態である。雨漏りによる漏電の危険性もありうる状態で、床も改修の必要があると考える。

建て替える場合、全ての利用団体に対してアンケートを取ることを担当部署に要望した。一日も早く新しい施設が必要と考える。また、文化センターと併設が望ましい。



古河体育館視察

会 長	渡邊 澄夫
副 会 長	小森谷英雄
幹事長兼会計	佐藤 泉

会派の活動を報告します

政研・市民ベースの会

会派仲間はもとより、市民の皆さんとも「心をついに、共に学ぶ」を合言葉に活動報告やセミナー等を開催しています。

◆絆プレスの発行

会派・各議員の活動報告、また市政・情勢についての私たちの考えを市民の皆さんへ発信しています。

今回は 3 月定例会および 4 月臨時会の議案に対する会派の意見、「古河市のお金の使い方は？」を特集しています。

◆未来塾セミナーの開催

市民の皆さんと共通のテーマを基に勉強会を開催し、市民協

働のまちづくりを実践！

第 1 回未来塾では、宮城県・南三陸町の佐藤町長による基調講演「激震！迫る危機、絶体絶命の瞬間、町長・町民は？」、そしてパネルディスカッション形式で、災害発生時の「自助、共助、公助」について学びました。

また、第 2 回未来塾では、障がいを理解し「共に生きる」とは何かをテーマに、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事である中森邦男氏の基調講演「パラリンピックスポーツの魅力について」、車椅子バスケットボール体験会、エキシビジョンマッチ（元日本代表選手を含む車椅子バスケットボー

ルチーム、栃木レイカーズ）を企画（残念ながら台風接近のため延期）。

これからも市民の皆さんの声を大切にし、市民の皆さんと共に学び、絆プレス発行や未来塾イベントの開催を通し、市民協働を実践してまいります。



並木 寛 生沼 繁
大島 信夫 秋山 政明
阿久津佳子 長浜 音一

会派に属さない議員

介護の必要な一人暮らしのお年寄りや離婚により住居を失い

車上で生活する方、病気を患い税金の滞納を余儀なくされている方からの相談が増えています。相談は本人からではなく、ご近所や市外の親族などからの電話

です。すぐに本人と連絡を取り、実情を調査して、弁護士や市の職員の協力も得て、生活改善と自立への援助に取り組んでいます。（秋庭 繁）

会派に属さない議員

先導的プロジェクトにある「南古河駅」設置の条件の一つ

に、乗降客数の確保があります。この条件を満たす方策として、新駅前に学校を設置する事を提案しています。

高等教育機関の誘致に成功し

た先進地を視察させていただく等、古河市のさらなる発展のために日夜研鑽を積んでいます。

（落合 康之）

会派に属さない議員

障がい者総合支援法が導入され久しい。『いつでも・どこで

も・誰でもが最善の医療や福祉が受けられる社会』を目指し活動を続けてきた。長年の経験から施設等の建設を含め「補助金制度」に大きな差異があり、特

に障がい者への国の政策において、手厚い支援が十分でない現状がうかがえる。議会人として踏み込んだアクションの必要性に迫られている。（四本 博文）

議員表彰

永年、市議会議員として地方自治の振興発展に寄与した功績が認められ、全国市議会議長会および茨城県市議会議長会より7名の議員が表彰されました。



全国市議会議長会・茨城県市議会議長会

《議員在職25年表彰》

山腰 進 議員

《議員在職15年表彰》

倉持 健一 議員 増田 悟 議員
 園部 増治 議員 渡辺 松男 議員
 落合 康之 議員 佐藤 泉 議員

副議長がかわりました

定例会最終日の6月15日に、副議長の選挙が行われ、佐藤稔議員が選出されました。



副議長 佐藤 稔

★第2回定例会の傍聴者数★

議場コンサート 34人
 本会議 42人
 委員会 7人

合計 83人
 ※傍聴者数は延べ人数

平成 30 年 第 3 回定例会の開催日程

月 日	会 議	時 間	内 容
8月30日(木)	本会議	10:00	開会、議案の説明
9月3日(月)	本会議	10:00	質疑、議案の委員会付託
9月4日(火)	常任委員会	10:00	総務常任委員会
		10:15	産業建設常任委員会
9月5日(水)	常任委員会	10:00	文教厚生常任委員会
9月6日(木)	特別委員会	10:00	決算特別委員会
9月7日(金)	特別委員会	10:00	決算特別委員会
9月10日(月)	特別委員会	10:00	決算特別委員会
9月11日(火)	本会議	10:00	議場コンサート
		11:00	一般質問
9月12日(水)	本会議	10:00	一般質問
9月13日(木)	本会議	10:00	一般質問
9月14日(金)	本会議	10:00	委員長報告、質疑、討論、採決、閉会

※ 変更される場合もありますので議会事務局までお問い合わせください。

おわびと訂正

平成30年6月1日発行の古河市議会だより第54号の掲載内容の一部に誤りがありました。おわびのうえ、以下のとおり訂正させていただきます。

【訂正箇所】

4ページ（賛否の分かれた議案等）の表中、議案第1号（修正案）に対する倉持健一議員（議長）の賛否

誤 「—」
 正 「○」

編集後記

この度の西日本豪雨にて被災された地域の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

今号には会派の活動報告を掲載しております。市民の皆さまが、私たち議員の活動を知るよい機会となれば幸いですのでご一読ください。

また、古河市議会では開かれた議会を目指し表紙写真を募集しております。皆さまの応募を心よりお待ちしております。

副委員長 稲葉 貴大

【議会だより編集委員会】

委員長 秋山 政明
 副委員長 稲葉 貴大
 委員 阿久津佳子 鶴見久美子
 鈴木 隆 渡邊 澄夫

古河市議会事務局
 古河市長谷町 38 番 18 号
 ☎ 0280-22-5111 (代)